

支部だより

令和 7 年 10 月
第 105 号

諸活動への御礼

日頃は本活動へのご協力・ご活躍での皆様へ心より感謝申し上げます。

今年も春から大阪関西万博・大屋根リング見学会を 8/8、納涼懇親会を 8/23、震災 30 周年事業「ぼうさい建築士会」8/31、加古川楽市楽座 9/6.7、と実施され、猛暑の中、皆さま大粒の汗を拭きながらの開催、本当にありがとうございます。

また 9/19～21 に建築士会全国大会「第 67 回おおさか大会」、2 級製図講習会 9/13 で終わりは結果を待つばかり。また、建築相談会も実施されており、各委員の皆様には引き続きお世話になります。

会員数も 2025 年 9 月 1 日現在 93 名となり、10/1 には新たなメンバーが加入されます。引き続き新規会員のご紹介をお願い致します。

昨年の 4/27 に「SDGs がもたらす未来」の特別講演を頂いた Green Planet が、この度の万博の日本館で開催されております。

先日は世界最大級の木造建築である大屋根リング見学会を大盛況のうちに無事終える事が出来ました。「多様でありながら、ひとつ」という本万博の理念とシンボルとなる地球へのカンムリ！当日は天候良好でリングの屋上「スカイウォーク」を一周。疲れていても、体が進む。新たな世界への期待感でしょうか。また瀬戸内からの爽やかな風が疲れを吹き飛ばしてくれます。眼下にはバラエティなパビリオン前で、歌や踊りが披露されておりました。

諸行事は何かと大変ですが、迎える側・来訪者がお互いに歓びあえる場を準備致しますので、今後共建築士会へのご協力を宜しくお願い致します。
(支部長 坂上 浩司)

万博大屋根リング見学会に参加して その1

見学会では万博シンボルの大屋根リングについて、実施設計をご担当された大林組の黒川様より、詳しくご説明をいただきました。

- ・建設会社 3 社が工区を分割して、実施設計と施工・監理を行ったこと。
- ・伝統工法を取り入れた軸組みの貫工法では、くさびの施工方法が 3 社で異なること。
- ・柱は高さ 20m 部にジョイントがあり、これは

トラック運搬による制限長さであったこと。

・柱梁の保護塗装は木肌をきれいにさせるために薄塗りしていること。 など
風景として記憶に残るであろう万博の主人公大屋根リングは、博覧会が成功した大きな要素であると思います。総括設計者藤本壮介さんの創作力、設計施工された建設会社の技術力高さによりつくられた世界最大の木造建築であることを改めて思いました。

貴重な参加機会をいただいた、兵庫県建築士会加古川支部様のご厚意に深く感謝申し上げます。
津崎 洋人氏（兵庫県ヘリテージマネージャー修了生、大阪府建築士会会員、勤務先：日建設計 CM）



万博大屋根リング見学会に参加して その2

この度、初めて建築士会のイベントに参加させていただきました。

大屋根リング設計施工説明会では、ツースパンで…縁を切って…構造が…という感じで説明していただき、あー建築のプロの説明会だなあとしみじみと感じたと同時に建築士会に入会して良かったと思いました。

説明会に参加するにあたり一点心配ごとがありました。虫が苦手な私はユスリカ大量発生の報道を見て恐怖でいっぱいでした。虫よけスプレー、虫刺され薬を携帯。ですが大屋根リングの上、柱どこを見ても見当たらず。天候に恵まれたのでしょうか？ほっとしました。

最後に、昼間の暑い中、屋外で飲むビールとおつまみの唐揚げは最高でした！

貴重な体験をさせていただきありがとうございました！
(岸 幸栄子)

万博大屋根リング見学会に参加して その3

万博大屋根リング見学会に参加させていただきました。渋滞でバスは予定より遅れての会場到着。勝手わからずも急いでゲートに向かい、幸運にも予約が取れたパビリオン（いのちのあかし）へ時間ギリギリ滑り込みました。

汗を拭きつつ映像に見入った後は、大屋根の下でテイクアウトのランチを楽しみ、昼からはお待ちかねの大屋根リングの見学です。あの大きなリングは3つのゼネコンにより施工され、伝統工法の楔にあたる部分や根元の基礎取り合いなどはそれぞれディテールが違う事など、建築士会ならではの説明を聞かせていただきました。

暑さから逃れて一旦大屋根の下に移動しましたが、やっぱりリングの上からの景色を眺めてみたくなり、結局歩いて1周（以上？）しました。パビリオンの屋根や周りの景色を眺めながらの散策は気持ち良いもので、また来たい、ぜひ大屋根リングが残ってほしいと思いました。

お世話いただいた皆様、ありがとうございました！（尾瀬 くみ）



多様でありながら、ひとつ

建築士会での研修が万博にて開催され大屋根リングについての解説もあるということで、参加させていただきました。初めての参加の方々も多く、スマホのみで予約、決済する『デジタル万博』の取組が、デジタルデバイドを実現していました。次開催するなら『デジタル格差解消万博』が逆に新しいかもしれません。

と、つつい批判してしまう万博ですが、言うのは簡単、あれだけの施設や建築を短期間で実現するのは想像を絶する建築士や関係者の努力の結晶だと思います。

大屋根リングは、伝統的な「貫」接合と現代工法を組み合わせた世界最大級の木造建築物で、『多様でありながら、ひとつ』というコンセプトを体感することができました。施工会社による接合部

が違い、竹中工務店はクサビ型という解説も印象的でした。

パビリオンでは、一時的建築ならではの木造雨ざらし建築やテント膜材建築の中で大画面デジタル画像を堪能する体験や、その国の文化や未来をリアルに体感するものがありました。

パビリオンのコンテストでは、後者の体感を重視して、工夫したものが多く受賞していました。やはり、どこまでいっても、人間も建築も、デジタルの疑似体験ではなく、本物の素材や自然の匂い、その地域の風土に基づいた美しさを体感できるものが心を動かすのだと改めて感じた研修となりました。企画運営頂いた皆様に心より感謝申し上げます。（前川 桂恵三）



加古川楽市の報告

この9月6日と7日の両日に加古川市役所前広場にて毎年恒例となっています「加古川楽市」が開催されました。

青年部も毎年参加していますが、今年は開催時間が短く設定されていることもあり、出店内容のうちヨーヨー釣りを取り止め、金魚すくいをメインにメダカ販売を行いました。

開催1日目は日頃の暑さの影響か会場全体も昨年に比べ来場者が少なく、それにともない客足も伸びないわけで、金魚も温まった水に揺蕩う状況でした。

続く2日目はステージイベントが盛況だったようで来場者も増え、小さいながら暑い中の数少ない水場ということもあってか1日目と比べ客足は増えました。

備品の不足などで少し慌てる事態もありましたが、応援に駆けつけていただいた方々の尽力もあり無事に楽市を乗り切ることが出来ました。

来店者数や売り上げについては昨年の半分程度と、収益に拘ってはいないと言うものの、少し残念な結果となりましたが、忙しい中で準備や諸々の手配などに奔走してくれた永田副部会長兼会計には本当に感謝しかありません。

また来年も引き続き金魚すくい・メダカ販売を
考えておりますので、皆さまよろしく願いいた
します。(青年部部会長 東田 洋一)



ひょうごぼうさい建築祭に参加して

去る8月31日にイーグレひめじにて開催され
ました建築士の日事業である『ひょうごぼうさい
建築祭 in 姫路』に参加してきました。

講師には、日本地震学会会員であり、はりま地
盤・地震研究会代表の西影裕一氏に山崎断層と南
海トラフ地震の津波リスク、土砂災害事例につい
てご講演いただきました。

内容も地元に近い地名が多く、エリアがすぐ
に頭の中に浮かび、理解しやすくてとても時間が
経つのが早く感じられました。

また、NHKのカメラも入っての取材もありま
した。

その後、懇親会として姫路駅前のピアガーデン
にて意見交換を行い大いに盛り上がりしました。

次年度は但馬地域にて開催予定とのことでの
で、ご興味がおありの方は一度参加されてみては
いかがでしょうか。(理事 阪口 晴彦)



第 67 回 全国大会大阪大会参加して

先日、9月19日建築士会大阪全国大会が、大
阪のグランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)
で開催されました。

本来は10月の開催ですがエクスカーション(地
域交流見学会)を特別に大阪・関西万博2025を、
20、21日に含めた為、今回は通常より1ヶ月早
く開催することになったそうです。

19日大会当日、午前中は10の部会に分かれた
組織交流セッションが、同時に各会議室で開催さ
れ、各セッションに全国から選ばれた会員の活動
状況の発表がありました。

午後から記念講演会として、万博のドイツ館
とクエート館のパビリオンのデザインを担当され
た、ドイツの建築家・クリスチャン・サンダー・
チェルシッチ氏の講演がありました。

15:00~大会式典が開催され、全国から3000
人を超える参加者があったとの報告があり、式典
最後に次回の開催地、群馬大会で群馬から会員が
数十名(100名近い)参加され、次回大会の参加依
頼をアピールして引き継ぎ式がありました。



20・21日は、万博会場見学も含め8つのエ
クスカーションに別れ大阪の文化や街並み等を
十分満喫されたと思います。

私も以前は、全国大会など参加したことがあり
ませんでした。4~5年前から参加するようにな
り、今回式典や防災部会、記念講演会、万博見学
に参加してきましたが、記念講演会で講演があっ
た、クエートのパビリオンを2時間半の行列の中
やっと見学できました。

今までにない猛暑の中、過去の全国大会にない
大変な経験ができました。💧

次回は2026年10月16日(金)群馬大会で
す。皆さんも全国の会員が取り組んでいる活動を
また、エクスカーションを楽しんではいかがでしょうか?
(顧問 矢幡 稔)

ええはなしやん

第 84 回



新会員紹介

8月より入会しました備酒(びんしゅ)芳成と
申します。加古川で育ち、東幡工業高等学校建築
科を卒業後、25才のときに上京。以来、東京の
建築事務所で、何不足なく暮らしていましたが、
60才の定年をむかえるにあたり、一人暮らしの
母(固定資産税まで値切るなかなかのツワモノ!)

の面倒をみるため、35年ぶりにふるさと加古川に戻ることにしました。

定年までを振り返ると、バブルからコロナまで、設計の環境では、手書きからCAD、FAXからメール、ポケベルからスマホ、対面での打合せからリモートへと…どんどん便利な世の中となり、仕事の密度や精度はあがったものの、人との関係性は、少しずつ希薄になっているような気がします。

長いあいだ建築の設計に身をおいて思うことは、人との濃密な関係を築き、その時間を共有できたときこそ、仕事への結果につながることを信じています。

このたび、加古川支部に入会し、新たな環境で、ふるさと加古川のお役にたてたらええなぁと考えています。どうぞよろしくお願いします。

(備酒 芳成)



納涼懇親会の様子…記事は次号へお楽しみに

編集後記

今号は皆様のご協力により多くの記事が集まり、載せられるだろうかと心配しましたが、納涼懇親会の記事が、私のいつもの癖で、連絡が遅くなり原稿が載せられない事態になりました。

タイムリーな記事をお届けするのが支部だなのに、申し訳ありません。納涼懇親会は楽しく参加させていただきました。総会後の懇親会は、女性1名でしたが、今回は3名参加され、楽しく話をさせていたので、良かったなと思いました。

万博大屋根リング見学会の記事では、津崎洋人氏、岸幸栄子さん、尾瀬くみさん、前川桂恵三さんに記事を書いていただきました。各人の視点で書いていただき、読み比べてみてください。私は、前川さんの『多様でありながら、ひとつ』を体感したという行に共感しました。(行ってませんが)

ひょうごぼうさい建築祭に参加しての記事では、支部では理事、県本部役員としても活躍されている阪口さんに書いていただきましたが、肩書が多く、確認すればよいことですが、支部の理事とさせて頂きました。

全国大会は矢幡顧問に。4～5年前から参加されるようになったとのことですが、少しずつ支部からの参加者も増えているのではと思います。支部の活動にこれからも還元して頂けたらと思います。

ええはなしやんに新会員紹介を載せました。

「ふるさと加古川のお役にたてたらええなぁと考えています」ってところがええはなしやん！備酒さんに自己紹介して頂いていますが、何て読むのでしょうか？答えは文中に。読んでくださいね。

(広報委員会委員長 高橋 賢吉)

連絡票

メールかFAXで送付してください。

※ 住所・連絡先等の変更は必ずお知らせ下さい。(個人情報保護法に基づき管理致します)

公益社団法人 兵庫県建築士会 加古川支部
事務局／吉備建築設計室内 Tel,Fax 079-423-6350
支部長 坂上 浩司 直通 TEL：090-8750-9055
E-mail：kentikusikai.kakogawasibu.2025@gmail.com

